



未
 治
 見聞雜集
 六

曾士
 896
 97



696
97

辛未六月廿九日

觀世音菩薩

觀世音菩薩

小卷
全卷

鶴

龜

末廣

池田從三位敏

小和曾

池田從二位敏

德川從三位敏

德川從一位敏

三月

二十九十八

小出年四郎

電信信察

申出外一

申出仕

申付候

喜

三集

工集初

小出年四郎

敬集在

敬申付

候集

三集

喜

電信信察

三月廿二日
山書
三集
工集初

山書
三集
工集初

山書
三集
工集初

山書
三集
工集初

皇祖大神 奉祀之也 神代記

皇祖大神 奉祀之也 神代記

皇祖大神 奉祀之也 神代記

皇祖大神 奉祀之也 神代記

皇祖大神 奉祀之也 神代記

皇祖大神 奉祀之也 神代記

辛未十月

大改序

○新編抄

海部山出所抄

新編抄 海部山出所抄

新編抄 海部山出所抄

新編抄 海部山出所抄

新編抄 海部山出所抄

新編抄 海部山出所抄

辛未十月

仁貞の申上書元

海東 北 諸 國 新 圖
冊 二 冊

私書
中九
女子
三月
海東
北 諸 國 新 圖
冊 二 冊
仁貞の申上書元

長
申
上
書
元
仁
貞
の
申
上
書
元
海
東
北
諸
國
新
圖
冊
二
冊

上
下
入
字

張氏の書

海峽

未
三
月
廿
七
日
の
書

村
野

源江新田

張氏の

村野

張氏の書 海峽 未三月廿七日の書 村野

張氏の書 海峽 未三月廿七日の書 村野

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters. The text is dense and fluid, typical of Edo-period calligraphy.

C-1-X

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters. The text is dense and fluid, typical of Edo-period calligraphy.

一 大壽宮宮前澤中申一版平... 法... 官... 官...
 一 往... 往... 往... 往... 往... 往...
 一 苗... 苗... 苗... 苗... 苗... 苗...
 一 止... 止... 止... 止... 止... 止...
 一 止... 止... 止... 止... 止... 止...

昨... 昨... 昨... 昨... 昨... 昨...
 一 檢... 檢... 檢... 檢... 檢... 檢...
 一 檢... 檢... 檢... 檢... 檢... 檢...
 一 檢... 檢... 檢... 檢... 檢... 檢...
 一 檢... 檢... 檢... 檢... 檢... 檢...
 一 檢... 檢... 檢... 檢... 檢... 檢...

昔 仲之 必程 實もも 備 具事 幸 次等
如 河 漢 之 海 乃 是 不 常 人 口 味 之
凡 日 之 後 乃 爲 難 之 事 則 之 由 任 上 下 評
廣 西 賦 道 中 乃 何 信 之 必 有 武 之 建 運
け 理 乃 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦
如 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
折 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
也 震 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
記 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
予 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

日 侍 之 科 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
備 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
如 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
凡 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
廣 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
け 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
如 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
折 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
記 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
予 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
亦 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

何處の山生く者や東海人毎に其の如きも
有る者も入乎し其來海内者古所し夫海
東の山生く者も其海内生く者し其大なる
其生く者も其海内生く者も其大なる
其生く者も其海内生く者も其大なる

あま

本も其生く者も其海内生く者も其大なる
其生く者も其海内生く者も其大なる
其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

其生く者も其海内生く者も其大なる

○善其備礼... 未... 中... 善... 未... 中... 善...

新聞社

此書... 新聞社... 諸君... 必... 長... 覽... 領... 世... 德... 方... 向... 察... 起... 文... 下... 可... 書... 了... 矣...

一月... 行

辰... 池... 上... 新聞社... 梓

○此處為瑞士族年之通書
也通了是

今夏及秋將才多進之好農也
不少年也 田都年梅家 田里
生重之方 古通 漢字 本末
山邊之方 芳使 芳字 本末
當學方 元金 元字 本末
姓之由 印 印字 本末
也者志之 志字 本末
也者志之 志字 本末

○此處有自 藤武公家書一不有錄
也通了是

年本一月 斐然得

今秋後花之元通書
和事相也 和事相也 和事相也
為中而也 和事相也 和事相也
年未三月
金本一月
年十月後九月
和事相也 和事相也 和事相也

每馬上好須部中... 花紫... 不乘理... 貫... 山... 中... 卒未... 天根縣

長... 天根縣... 卒未... 天根縣

升紙

系... 將... 部... 卒未... 天根縣

卒未... 天根縣

天根縣

世間名の本或は六谷波子
浪安才末中平年分米之年山岸橋

一石字別 何年

妻 一 女 一

此後...

平年...

元...

壽馬口...

三

小治政の煙火

客先兄弟の首領を奉りて今之小治政の執政
及政令の進歩を爲すに先づ古學を本とし
及政令の進歩を爲すに先づ古學を本とし
及政令の進歩を爲すに先づ古學を本とし

大坂老翁

系春

此

一、下、河、野、軍、部、の、官、員、中、に、武、士、未、だ、殺、害

西海市湖、下、有、る、武、士、任、務、中、に、長、年、

大、老、年

一、段、の、中、年、無、事、何、し、と、云、ふ、事、

一、段、の、中、年、無、事、何、し、と、云、ふ、事、

○ 婦女ノ斬髮ハ外國ニテモ爲カレ、日本ハ

彼ノ如クテ之ニ過タリトノ説アリ然レ

斬髮ノ一喜意ハ頭部ヲ清潔ナラセ、髪

毛ニ垢氣ヲ去リ、亦、癬ヲ除、頭部

善哉日神經ヲ醫治且洗沐ニ便ニ給
奉ニ責スルノ時問ナ有ク類益多ク檢
査ニ方今如字

御創姓ノ跡ニ山ヨリ此數ノ王功ニ思ハ
冬國ニ據ラシテ男子ト同ク新髮スル
等ナカラシム祖本々

御廻則ニ御出カレ六和二十五年如
カレノ人

○三年末十月六日

白書

御人下日
御眾

愛宕後ニ依存

愛宕山道九

以從二位

以長門守

長門守

福國

久留米縣

小所

柳川縣

古川

長門縣

田原

張身抄本

張身抄本

張身抄本

秋田縣志

中村忠也

三田縣志

三田縣志

安東道志

安東道志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

張身抄本

張身抄本

張身抄本

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

秋田縣志

日

川島藩の
持葉士展中筆の字
字如瓶

公同筆士展
前同如

因疑士展
内多色正練
希光法在

公同筆士展
務同展在

公同筆士展
大如星道

日

秋の懸士展
新會の懸士展
公同筆士展
公同筆士展
公同筆士展
公同筆士展

公同筆士展
公同筆士展
公同筆士展

○下りて新

月

舞

音

為

後也

あつた

新

世

初

我今

新

柳

古

あつた

海

大

空

あつた

天

鳥

花

水

山

田

松

差取

山久留年源記

長外水部

改取

和年源記

小留年

散りし世の事... 世の事... 世の事...

博覧多聞

西洋訪聞... 博覧多聞... 西洋訪聞...

女代、島物等... 博覧多聞... 女代、島物等...

御願、奉承、和漢古書... 博覧多聞... 御願、奉承、和漢古書...

陣列... 新古... 御願... 奉承... 和漢古書... 陣列... 新古... 御願... 奉承... 和漢古書...

山... 速... 山... 速... 山... 速... 山... 速...

新刊の... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

三月十日

傳定會社

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

○東京市書橋書

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

宗廟... 宗廟... 宗廟... 宗廟...

勝部侍下... 相定直人久八之

方借金

第一 金千六百廿
第二 四百廿五
右二十箇... 月...

東年...

色縣...

...

未...

...

...

海社... 小室... 山色...

...

...

...

...

山部... 市部... 市部... 市部...

浪華首題

浪華首題
乃自のりし
ものゆゑ

中布令

中布令
治水治山
自費
輸
利
新

神皇正統記
卷之九
崇徳天皇

大和守吉野

北出村

神社

内政王官榮大氣別自今官奉

多末

古官

一宮縣水江縣口政務
奉末
古官

得受
東系
新
古
權
萬
古
權

病も必死の憂ありしを却

○四五日方之丸に蘇祿の醫者中匠者下札

程を以てしりしに下し是を以て方了りしを

凡そも遠の二年の間の程を以て方了りしを

再度致ししに方了りしを以て方了りしを

山崎の程を以て方了りしを以て方了りしを

○一此の心づかいを以て方了りしを以て方了りしを

和又井田の程を以て方了りしを以て方了りしを

一馬車を買て方了りしを以て方了りしを

将又馬の上を以て方了りしを以て方了りしを

方了りしを以て方了りしを以て方了りしを

方了りしを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

者帽を以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

希しとすは遠のめを以て方了りしを以て方了りしを

○大坂中いしは作り梅松之并益谷千二市
中者米中早稲穂を有りては益谷男
天朝の西豊後門に有りて高尾三郎ありて有る
哉年始めより系原村人儒家必書曲の筆
いりて味をまじし

○三丁より下年上元二丁高野の米は加田の米

此條は秋の米
小倉の米は時々の米

山系ありて米は
米は時々の米

米は時々の米
新米の米
新米の米

蘇代。後者。今。此。亦。定。之。時。保。送。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

○未。去。月。二。日。所。陳。

中。系。中。系。是。也。日。蒙。西。領。小。是。我。二。系。初。有。官。官。其。夫。小。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

一。是。夜。能。放。一。千。中。代。後。十。二。是。是。方。一。世。其。中。好。

大垣或年辰ノ和為鐘鑿ヲ再建ノ志願ニテ
賜相授ヲ再行セシニ在りテ利ナシ一々如大
師可ノ所為ヲ婦人ニ紙ヲ乞ハシテ支ト方
其後紙全
手形ナキ故紙鑿ヲ紛失ノ由ヨリ由ナリ是
手形ノ遺失セシ鐘ノ借金ニ由テ分ク出セリ
廿六手形ノ鐘紙也

相授ニ由テ手形ノ取ラレ
ナシテ對テ此鐘堂ハ

○元大垣縣ノ小參事桐山長三郎今度加川金澤
縣ノ參事ニナリテ為下理事也之方標採出ワリテ
東京府ノ出立ニテ大蔵省ノ官直ニ任セラル由是入元
大垣洋字長浦北長教師在村春藏
擢テラ今度大政官ノ高官ニ昇進ノ實ニ入大
登三番用セニハ一歳日ノ

○大垣西十八久世川邑ニ河村儀左五郎トシテ富家
アリ此人同志ノ者ト社ヲ結ビ金ヲ積ミテ西洋小学
校ヲ取立テ大垣洋字長浦北長教師在村春藏
門人某甲ヲ教授長ニ頼メテ此項同存松原所ノ一少女
英ノ単語習得中ト云モテ道ラモノアリ
又同所ニ先年ヨリ咸樂場ト名付テ常芝居

生上書此
人カモ
謀

居た長投者幸ふ者皆用いぬ人々を以てして社
法家の子を以てして信じて相細き言西日南に於て
物事を抱成り好むは是れ棄て新人を以てして
徳を以てして是れ棄てしもの有るは此れ三社の和
一のあり是れ是れを以てして是れを以てして
本年を以てして是れを以てして是れを以てして
我部は棄てし政ありて是れを以てして是れを以てして
中身り棄てし政ありて是れを以てして是れを以てして
知古元ノの政ありて是れを以てして是れを以てして
保つべきは是れを以てして是れを以てして是れを以てして
三年奉十寸

右の語は...の語は...

印上係る有るは是れを以てして是れを以てして
流るるは是れを以てして是れを以てして是れを以てして
又此れを以てして是れを以てして是れを以てして
是れを以てして是れを以てして是れを以てして
印上係る有るは是れを以てして是れを以てして

此後... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦...
 亦... 亦... 亦... 亦...

有... 始... 始... 始...
 始... 始... 始... 始...
 始... 始... 始... 始...

辛未
 十月

其... 其... 其... 其...
 其... 其... 其... 其...
 其... 其... 其... 其...

萬初誠美慎終
宜令榮業所基
藉甚無竟學優
登仕攝職從政

山規則... 大... 省... 上... 須... 嚴... 奉...
辛亥年...
太... 官

存以甘棠去而
益詠樂殊貴賤
禮別尊卑上和
下睦夫唱婦隨

外受傳訓入奉
母儀諸姑伯姪
猶子比兒孔懷
兄弟同氣連枝

交友投分切磨
藏規仁慈隱惻
造次弗離節義
廉退顛沛匪虧

丹波信長公の事

丹波信長公の事
はあまのまゝに自應に於て十分の事ありて其の
以て其の爲に於て其の事も亦十分の事ありて其の
アメリヤニヨリヨリクハワシワシニトシテハ其の
四篇十五日ワシニトシテハ其の事申すにテハ
と云ふ所より其の事も亦十分の事ありて其の
十分の事ありて其の事も亦十分の事ありて其の

其之居及婦... 山今見... 多之初... 八月廿... 再行...

今報信實之會... 新... 社

二月... 山... 行... 連... 其由... 語... 兩人

謂ハ彼ハ以刃ノ小僧ニテ多千里ノ
程ヲ行スルトテ實ニ不疑ナリ侍
ノ眼ニ正モリ程ナシヨリ棒ヲ以テ
打倒シ遂ニ是ヲ獲テ歸リ途中
阿テ道ニ惑ハニ百文ニ賣リテ之ヲ
ノ不肖ヲ以又謂本主ニ及ニ果テハ
汁ニシテ喰エリト

○浪華の車引札 板

今飛去リ家ニ寄リ許シ合馬車

并業事ノ者各様ニ御合馬車

程編ニ奉願上ノ旨

一任吉道宗合片送

亦是人柳

今も是る石を舟に死

ニ不肖免許ナリ御事ハ

少少以テ御事ナリ

馬車

我橋山結
馬車會所



本公館設海分少者別為只抗等兩
代一切中律律之益之移之在之
及之之之之之之之之之之之之



秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下

秀梅在 孫定翁之 御下 御下 御下



